

## 地方創生トライアングル

榑 美 樹

(東和電材株式会社代表取締役社長)  
(ラインメール青森FCオーナー)



「ボールは疲れない」と呟いたのは、オランダの元サッカー選手ヨハン・クライフだ。この言葉の文脈は、「人はボールより速く走れない。いくらボールを動かしてもボールは疲れない」だ。クライフは今年の3月に永眠している（合掌）。

牽強付会かもしれないが、お金もまた疲れない。お金は私たちがお金であると信じているものの、幻想に限りなく近い共同体的な存在だ。しかし、この幻想に近いものが走らないことには経済は活性化しない。実際に、東日本大震災直後の津軽では、一時的に貨幣は紙屑に近い感覚、幻想崩壊に襲われた。もちろん中小企業にとって、喫緊の課題は人材の確保と育成であることに異論はない。お金も人も大事。しかし、これが中々速く走れない。中々リクルートが進まない。クライフの名言の要は、3-4-3の布陣で選手間に12個の最多のトライアングルを散開させて、プレッシングを無効化させ、ボールを支配することだった。以前は、青森県内の大学、研究機関、役所、商工会議所そして中小企業と、全体的にまとまりがなく、地域内からの起業・創業を支援する雰囲気もなく、「努力してもしょせん無駄だ」という弱さが我々の心に巣くっていた。無力感から未来を想起できない状況だった。その中で、産学官連携に金融の重要性を説いたのが、ある金融マンであった。彼は、バラバラだった産学官に金融を加えて組織化し、大学や研究機関に蓄積された研究成果の事業化や製品化を図る「グローバル産業創出・集積支援プロジェクト」の座長も務めていた。銀行融資といった間接金融でなく、直接、企業を育てていくべきじゃないか、という機運が、県の中に出始めてきたのはこの頃からだと思った。

振り返れば、昭和48年に電設資材総合商社である東和電材（株）の配電盤製造部門を独立させて東和電機工業（株）とし、それから10年目の昭和58年に、首都圏市場攻略の足がかりとして埼玉工場を稼働させた。それまでは、青森県の田舎企業が首都圏で営業しても相手にされるはずもなく、「TOWA」ブランドの市場認知は遠い先のことであった。反攻は、この埼玉

工場から始まった。当時の地元銀行の主流は、担保融資であり、事業の成長性に着目して融資する前例もなく、炯眼を備えた人材も少なかった。クライフは云う、「ボールを持っている選手よりも、ボールを持っていない選手の方が重要だ」と。それは、ボールをもらった瞬間にベストな状態で動く為には、常に戦局全体の流れを念頭に置き、自分の周辺の局地的な状況を理解する必要があるからだ。埼玉工場の建設にあたっては、政府系金融機関の商工中金にお世話になった。景気動向の見極めから、事業計画・財務状況と融資審査は詳細に詳細を究めた厳しいものであったが、これが勉強になった。お金をパスしてもらうには、自ら最適なタイミングで走り出しゴールを目指さなくてはならない。闇雲に速く走るかではない、いつ走るか、どこを目指すかが重要だからだ。

政府は、これからのスポーツ市場が2025年には15兆円規模になると予想している。平成28年11月には、スポーツ庁から「スタジアムアリーナ改革指針」が出され、スポーツ施設に対する固定観念や前例主義を排して、コストセンターからプロフィットセンターへの転換を呼びかけている。スタジアムアリーナは、周辺の飲食・宿泊・観光を巻き込んで、地域活性化の起爆剤となる潜在力を秘めている。

青森市周辺には、日本最大の縄文集落跡の「三内丸山遺跡」、シャガール「アレコ」全4作品が展示されている青森県立美術館、あすなる国体が開催された青森県総合運動公園、棟方志功画伯も逗留した浅虫温泉、ランプの宿の青荷温泉など各地に温泉が散在している。さらに、残雪の八甲田山から若葉輝く十和田湖エリアまで含めると、あおもりツーリズムゾーンとしては申し分がない。ここに新たなスタジアムアリーナを建設し、これを核として新たな産業の集積を図る未来を想起することは決して無意味ではない。私見だが、天然芝と人工芝のハイブリッド寒冷地仕様の専用グラウンドも整備すれば、トレーニング拠点として各スポーツクラブの長期滞在も期待できる。

三内丸山遺跡には隣接して「縄文時遊館」があるが、日本人の原風景を色濃く残す風土に触れ、異言語混交する空間に全身を預けることができるのは青森ならではの体験だ。巡礼ではなく、時遊トライアングルの旅へ。もしかすると、地方創生から中小企業の喫緊の課題（人材確保）までを解決できる糸口が見つかるかもしれない。

脱線するが、「津軽はそれでとっても良くなりますね」という語句を津軽弁フランス語風アレグロテンポで言うと、「ツガル セバダバ イイビョン」となる。古代遺跡・ミュージアム・スタジアムに多様な人種が集う未来を想起して、厳密な行動計画を立て、難題をクリアしてパスをもらおう。

西暦2025年、(仮称)「あおもり〇〇〇アリーナ」へようこそ。